

苦小牧市では、令和4年4月から職員を対象に出生サポート休暇を導入。職員の心身の健康を重視し、働きやすい環境づくりに努めている。

出生サポート休暇を推進

出生サポートとは不妊治療に利用できる有給休暇。
プライバシー保護の観点から理由を明記せずに申請でき、不妊治療を目的とする場合には、1年間で最大5日間、体外受精や顕微鏡受精の場合には、さらに5日間の取得が可能。
この取得が進んでおり、令和4・5年度にそれぞれ8人が取得した。

令和7年1月20日(月)に、第9回「市長とジェンダーミーティング」を開催。第一部はmederi株式会社代表坂梨 亜里咲氏による「女性の健康課題理解で変わる職場コミュニケーション」について講座を行い、ジェンメンバー18人が受講した。

自身の不妊治療の経験から起業した坂梨氏は、現在、企業における理解

一生を支配する

女性ホルモン

約8割が感じるトラブル
働く女性たちが直面する健康課題。約8割の女性が生理トラブル等が原因で仕事への影響を感じている。
これにより、チーム全体の生産性にも影響を及ぼす可能性があるため、企業側もこの問題に対して真剣に向き合うことが必須となっている。

女性の健康課題について学ぶ

理解の姿勢が重要！

ジェンミ新聞

第9号
発行 苦小牧市
協働・男女平等参画室

促進に力を入れている。
▼女性ホルモンの影響による世代別の症状への理解
▼月経困難症・更年期障害等の病気への知識
▼組織運営における包括的な健康リテラシー向上
この3点が重要であると講師は話した。

第2部 市長、講師とジェンメンバーが対話し、一人ひとり行動宣言カードを発表した。			

女性の健康課題の理解に向けて行動を宣言



▲ジェンメンバーと講師の坂梨亜里咲氏

ヘルスケア講演会と女性の活躍を支える取組 包括連携協定 1 周年記念

令和6年3月に苦小牧市と協定を締結したmederi株式会社。今回のジェンミは、包括連携協定※締結1周年を記念し開催に至った。

オンラインピルの処方を中心に、女性・男性の健康課題を解決するための事業を実施しており、本市においても女性アスリートや女性の就労支援、学校の養護教諭や市職員等、幅広い場面で性教育等の講師協力をいただいている。

ヘルスケアや女性活躍、各種セミナー等の協力・協業が含まれ、今後も連携を強化し苦小牧地域全体の健康意識向上と次世代教育の充実を目指す。

※自治体と民間企業が連携して地域課題を解決し、地域の活性化や市民サービスの向上を図る。令和7年1月時点で21社と締結。



市長とジェンダーミーティングの詳細は市公式HPからご覧ください⇒



編集後記
金澤市長就任後初のジェンミ。市民・団体・企業によるグループディスカッションでは講師と市長も各班を回り、活発な議論が展開された。最後はメンバーから、女性の健康課題への理解促進や環境整備、支援サービス導入等、幅広い行動が宣言された。対話するジェンメンバーの「まちに変革を目的に、今後も連携しながら取組を進めたい。」という「K」